

# 静岡西ロータリークラブ会報

● 会長 沼田時子  
● 副会長 富田英児  
● 幹事 山崎雅光  
● 副幹事 白鳥三和子

例会日：毎週水曜日 12：30  
(但し第一水曜日 18：30)  
例会場：ホテルセンチュリー静岡  
Tel 054-284-0111

クラブ事務所  
静岡市葵区追手町 12-12  
静岡安藤ハザマビル 5 階  
Tel : 054-254-5611 / Fax : 054-221-0515

## 第 1963 回 2016 年 9 月 21 日 (水) 例会

● 司会 幹事 山崎雅光 君

● 開会点鐘 会長 沼田時子 君

● ロータリーソング

「それでこそロータリー」

ソングリーダー 原 承範 君

● 四つのテスト唱和  
原 承範 君



● 本日のお客さま並びにビジター紹介  
静岡県くらし環境部 松下明生さん  
米山記念奨学生 ヒュン・ソープンさん

● 会長挨拶 沼田時子 君  
皆様 台風の被害は大丈夫でしょうか？台風について調べてみると語源は源氏物語・第 28 帖の巻名に野分（のわき）とあり、野を分けるほどの風のことだそうです。実は私週 1、2 度静岡市立図書館に行って CD を借り運転中、源氏物語を聞いています。今 16 帖・関屋なのでまだお目にかかっておりません。以前は 5 代目古今亭志ん生など落語を聞いて笑いながら運転していました。源氏物語はあまり借りる人がいないのかいつでも揃っていて車通勤の方には大変お勧めです。台風の話に戻りますが、江戸時代の文献には颶風（ぐふう）、明治時代に入ると欧米文化の影響から英語の typhoon（タイフーン）もそのまま使われるようになり、明治末期中央気象台長の岡田武松氏が「たいふう」と意識し気象用語として颶風（たいふう）という言葉が定着したそうです。そして 1946 年以降当用漢字の台風になったそうです。強風（15m/s 以上）の半径 500~800 km が大型、800 km 以上が超大型、32.7m/s 以上が強い、43.7m/s 以上を非常に強い、54.0m/s 以上を猛烈なと表現するそうです。被害があった場合の保険対応ですが、

自動車はエコノミータイプでも車両保険加入なら車両金額まで修理可能、ロードサービスはただなので車両保険未加入でも運んでくれますが、集中するので一昨年場合は次の日になった方もいたそうです。建物の場合は、風災までだと風で家屋の一部が飛ばされたなら担保されますが雨漏りだけだと担保されません。土砂崩れや、水害は水災担保が必要で、床上浸水や地盤から 45 cm を超えるなど条件が付く場合が多いので証券で確認をしたほうがいいです。どんな場合でも携帯電話でいいので、写真を撮っておくことをお勧めします。

● 幹事報告 山崎雅光 君  
・新入会員 安藤 弘 君 承認

● 委員会報告

ロータリー財団 渡辺憲治 君

・ロータリーカード加入時の注意点についてカード申込時に地区コード(2620)クラブコード(14359)が必要  
・地区補助金について例年梅ヶ島記念植樹を行っているが、これにはロータリー財団の地区補助金を充てている。財団に収められた会費 年次寄付 地区財団活動資金 地区補助金の流れ。本件は「大谷崩れの森造り」の件名で補助対象となっている。

奉仕プロジェクト委員会 加藤博一 君

・梅ヶ島記念植樹を

10月30日に実施する。

クラブ管理運営委員会 望月正弘 君

・例会終了後打ち合わせを実施する。



# 静岡西ロータリークラブ会報

● 会長 沼田時子  
● 副会長 富田英児  
● 幹事 山崎雅光  
● 副幹事 白鳥三和子

例会日：毎週水曜日 12：30  
(但し第一水曜日 18：30)  
例会場：ホテルセンチュリー静岡  
Tel 054-284-0111

クラブ事務所  
静岡市葵区追手町 12-12  
静岡安藤ハザマビル 5 階  
Tel：054-254-5611/Fax：054-221-0515

## ● 会員のお祝い ヒュン・ソーバンさん

・奨学金の授与  
・お礼の挨拶と大学院合格報告



## ● 出席報告・スマイル

### 川崎友和 君

会員 37 名中 出席 25 名

先々週 9/7

出席計算会員数 37 名、

出席会員数 27 名、

メークアップ 1 名、

改正出席率 75.68

### 沼田時子 君、武藤宏之 君

静岡県くらし・環境部 松下明生様

今日はよろしく願い申し上げます。

### 袴田文治 君

台風お見舞い申し上げます。

### 斯波幹和 君

10 日間 静岡を留守にしていました。

その間に髭がっ(笑)

### 榎 一夫 君、満井義政 君、

### 内海克彦 君、海老原正之 君

育成会にスマイル



## ● 卓話

### 静岡県くらし・環境部

### 松下明生 様

本日は熊本地震での現地対応を紹介しつつ、静岡県の地震対策(耐震補強工事)についてお話しする。県内には



昭和 56 年以前の建築物(旧建築基準法対象)が 20 万棟以上残っている。県の住宅耐震化率はすでに全国 1 位の水準ではあるが、さらに「TOUKAI-0」プロジェクトにより平成 32 年度末に

95%を目標に県民への PR を実施しているところ。熊本地震から 5 か月を経過したが、私は震災発生直後に静岡県・熊本県災害協定に基づき「応急危険度判定士」として熊本に派遣された。静岡県からの判定士派遣は延べ 34 名(4 班体制)であったが、私は第 1 班の隊長として 5 日間滞在した。判定士の任務は地震余震に対して建物の倒壊や落下物の危険度を診断し、その後の二次被害を最小限に抑えること。迅速さが要求されるため、チェックリストを用い 1 棟当たり 20 分～30 分程度で判断。1 人当たり 10 棟/日のペースで進める。まさに危険と背中合わせのハードな任務。ちなみに静岡県では全国に先駆け判定士の登録制度を導入。現在 6,000 人が登録している。今回現地入りして感じたことを 2 点。まず、熊本地震は家屋倒壊被害が大きかったが、その理由として九州は台風の多い地域にて屋根瓦の住宅が多いことがあげられる。地震では屋根が重いのは逆にワイクポイントになり、重さに耐えきれなかったと推測。その点では熊本レベルの地震が静岡を襲っても被害は限定的。また、その一方で死傷者数が少なかったのは早期避難に徹したこと。この点は見習うべき。次に感じたのは、被災地域では壊滅した住宅の中や家の前で普通に話をしている方が多いこと。毎日非日常的な光景を見続けていると疲労感もあって「危険感度」がマヒしてくること。被災地特有の精神状態。このような方々が二次災害に合わないためにも適切な声掛けが重要と感じた次第。最後に静岡県は「自分の命は自分で守る。皆の地域は皆で守る。今こそ耐震補強を」合言葉に安心な住まいづくりに努めて参るためご協力をお願いしたい。

## ● 閉会の点鐘 沼田時子 君

地震をはじめ災害に対しては、建物の耐震補強に加え、家具類の固定など、今自分にできることを事前の備えとして行っておくことが大切だとわかりました。松下さまありがとうございました。拝